



あまびき元気ニュース 号外

祝 内閣総理大臣賞 受賞

2022.11 天引区の活性化と未来を考える会発行

<http://amabiki-kasseika.moo.jp>

「令和4年度あしたのまち・くらしづくり活動賞」授賞式に参加して

11月2日、秋晴れの東京で行われた授賞式に行ってきました。会場は高層ビルの14階で、窓からは東京の街並みが一望出来、スカイツリーも見えました。

式場の座席は最前列で、内閣総理大臣賞の紙が貼られていました。その席に座り、配布された資料を見て、この賞の重さを改めて感じました。日本のマスコミを代表するNHKと読売新聞東京本社などが主催し、後援団体には、内閣府、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、全国知事会、全国市長会などが名を連ねています。さらに全国から応募のあった206団体中の最高賞です。この時になっても半信半疑の気持ちでした。

式は14時きっかりに始まり、挨拶の後、表彰式に移りました。トップバッターは内閣総理大臣賞の天引でした。会場中の目が注がれる中、登壇し、内閣府企画官の堀江さんから賞状を頂きました。その後、官房長官賞、総務大臣賞、主催者賞、振興奨励賞と続き、最後に審査委員長の愛知大学教授鈴木誠氏から講評がありました。その中で、鈴木氏は「天引の取り組みには普遍性があり、悩んでいる人たちに知ってほしい具体的なメッセージがある。この教訓を多くの人に知ってほしいという審査委員の気持ちから、天引に内閣総理大臣賞を与えることを決定しました。多くの教訓を具体的に教えていただいた。感謝して内閣総理大臣賞を贈らせていただく」と述べられました。これ以上の評価はないほどの評価でした。聴いていて身の震えるような感動を覚え、思わず目頭が熱くなりました。一人で聞くにはあまりにもったいない講評でした。

鈴木氏が教訓的だとされたのは2つでした。1つ目は、「地域の活性化を考えると、売り上げ高や来訪者数が増えることだけに目を奪われるのではなく、取り組みを通して、地域の人たちの絆がどれだけ深まったのか、やってよかったという満足度や、自分たちもできるという自信、やってみようという意欲などがどれだけ高まったのか、いちいち指示されなくてもやるという自治意識がどれだけ伸びたのか、お互いを尊重する民主的な人間関係がどれだけ広がったのか、地域外の人を受け入れる包容力がどれだけ大きくなったのか、こうした点を大切にする」こと。

2つ目は「(天引の取り組みでは) 自由な話し合いが大切にされ、女性が意思決定の場に参加して活躍し、情報が「元気ニュース」などでみんなのものになり、「よそ者」に門戸が開かれている」ことでした。

鈴木氏の講評を聞き、私たちの取り組みの中にある素晴らしさを再確認させられました。

授賞式終了後、賞状を手に、会場の方に記念写真を撮ってもらいました。他の受賞者の方もとてもうれしそうで、賞状を手に何度もシャッター切っておられました。

まだまだ課題も沢山ありますが、今回の受賞を私たちへの激励と受け止め、これからも住んでいて気持ちの良い地域、住んでみたい地域になるように、みんなで力を合わせたいものです。取り組みを始めて10年、節目の年に頂いた素晴らしいプレゼントでした。

なお、賞状は額に入れ、公民館に掲げられる予定です。また、副賞として20万円を頂くことにもなっています。(原田久 22年11月9日記)

